別宮川三郎の

吉野川歴史探訪　訪ねてみよう洪水遺跡

こんにちは。別宮川三郎です。藩政期の吉野川は、洪水と水害の歴史であり、川沿いを暮らしの場としてきた人々は豊かな自然の恵みを受ける一方で、毎年のように暴れ狂う吉野川と闘ってきました。現在のような堤防がない時代に、人々はどのように洪水と向き合ってきたのでしょうか。

石井町周辺には、今もなお、先人たちが洪水と闘ってきた歴史を感じることができる高地蔵など多くの洪水遺跡が残されています。今回は、石井町周辺の洪水遺跡のうち、旧堤防（龍蔵堤）、印石（産神社）、城構えの家（田中家）、高地蔵（愛宕地蔵）を探訪しましょう。

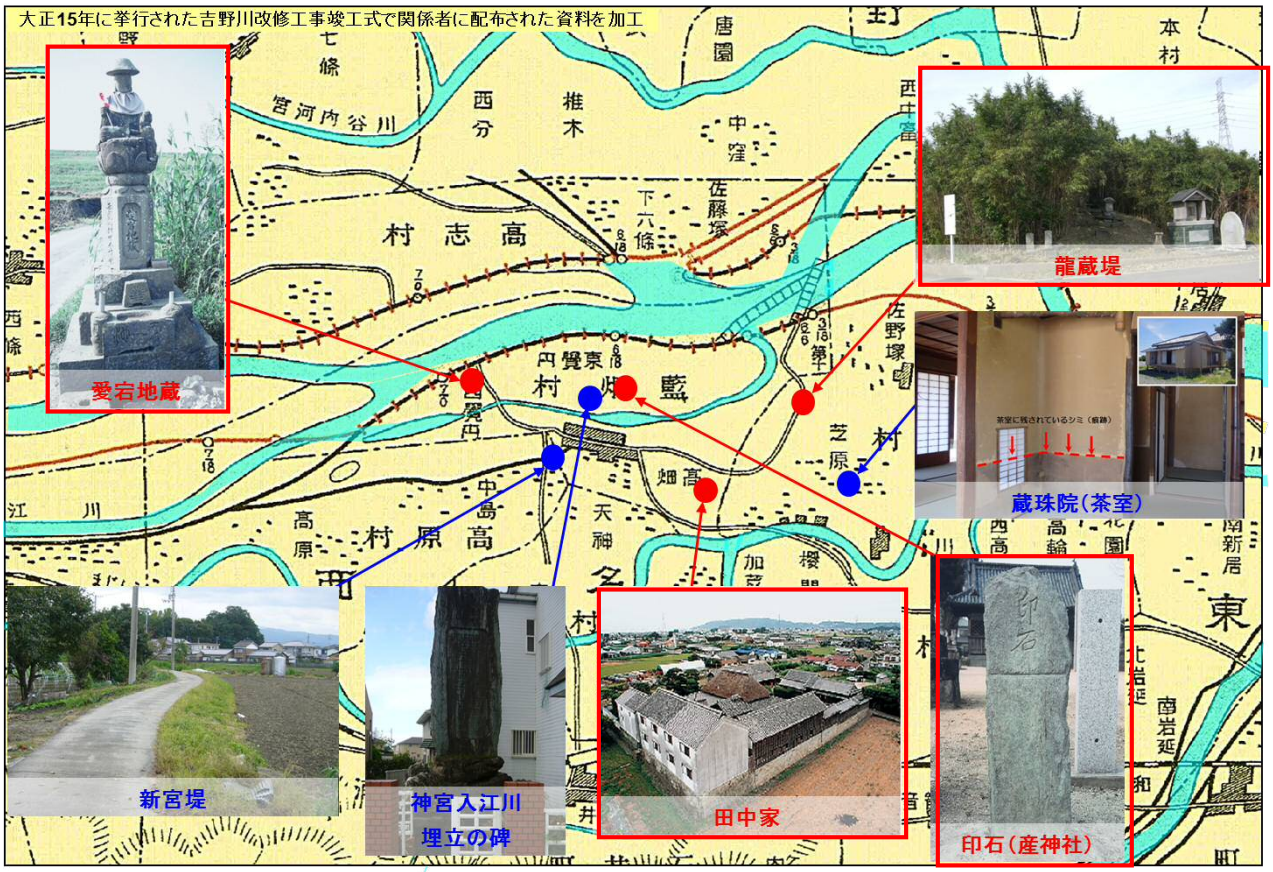

図１　石井町周辺の洪水遺跡マップ　●：今回、ご紹介する歴史遺跡箇所

１．　恩返しに人柱になった龍蔵は、堤防の守り神「川贄さん」

藩政期には、今のような堤防はなく、各所に小さな堤防が僅かにあるのみで、徳島市国分町芝原（竜王団地付近）にも、吉野川と支流の神宮川（現在の神宮入江川）の洪水が下流に及ぶのを避けるために築造された旧堤防がありました。

現在も、小さな祠と周囲よりも少し高い盛土が見られます。祠をのぞき込むと「川除大神宮」が祀られています。川除大神宮を地元の人々は、「川贄さん」と呼びお祀りを続けています。何故なのでしょうか？そこには悲しい物語が伝えられています。

写真１　龍蔵堤

この旧堤防は、幾度(いくど)築いても洪水のたびに流出を繰り返していたそうです。復旧にあたり、庄屋らの村の世話人が集まり相談した結果、明朝一番に芝原から第十に通じる街道を通行するものを人柱に立て、水の神に捧げることにしました。庄屋は村人のために我が身を捨てて人柱になることを決意し、妻にその旨を伝え白装束(しろしょうぞく)を用意し床につきました。

しかし、その話を漏れ聞いたのが庄屋の世話になっていた龍蔵です。龍蔵は**「あの情け深い庄屋さんを死なせてはならない。日頃のご恩を返す時は今だ。」**と、自分が身代わりになるため、翌朝一番に街道に行き人柱になりました。

そうして完成した堤防は秋の洪水がきてもビクともしなかったといいます。村人は龍蔵に感謝し祠(ほこら)を建て祀り、完成した堤防を龍蔵堤と名付けました。

写真２　龍蔵堤の祠

2．堤防を巡る騒乱、「水除(みずよ)け争い」と「印石」

藩政期に堤防を築くときは、藩に願いを出して、村同士で話し合いを持つのですが、利害が対立しまとまらない場面が多くありました。その結果、無断で堤を築いたり、誰も見ていない隙を見て、**堤に土を盛ったり削ったりという手段に訴えた結果、村ぐるみの紛争に発展しました。**この争いが長引くと藩が調停に乗り出し、対立する村の間で一定の取り決めをして決着を図ることもありました。

石井町でも嘉永４年(1851)に元村地区と中洲地区の間で水除け争い（築堤争い）あり、郡代は両者の話を聞いた上で、元村の人々に中洲地区の土地と同じ高さの堤防を築くことを許しましたが、元村の人々は完成した堤防にさらに土を盛ったため、藩は土を除去するように命じるとともに、今後争いが起こらないよう石柱の上部に堤防の高さを示す横棒１本と「印石」という文字を刻み、その石柱を堤防の各所に埋め込みました。

そのうちの一つが平成 8 年(1996)に完全な形で発見され、現在、石井町藍畑の産神社境内(けいだい)に設置されています。

図２　「水除け争い」周辺位置図

写真３　産神社境内の印石

３．暮らしの知恵、洪水に対する自衛手段「城構えの家」

吉野川流域を歩くと、緑色の高い石垣の上に家屋を乗せた「城構えの家」を散見できます。これは、洪水によって家が流されたり浸水するのを避けようとしてつくられた水防建築物なのです。なかでも大規模なものが石井町藍畑の田中家であり、江戸時代から「すくも」や藍玉を製造販売してきた藍商の家で、今でも全盛時代を思わせます。

田中家の石垣は、南北 50m、東西 40m という広い敷地の周囲を鳴門の撫養石や徳島特産の青石（緑色片岩）を使い緻密（ちみつ）に積まれています。また、吉野川の洪水がやってくる方向ほど高くなっています。建物は母屋を中心に土蔵、納屋、番屋、座敷、藍の寝床など敷地内 11 棟が完成するまでに約 30 年歳月をかけたと言われています。

母屋は茅葺（かやぶ）きで、洪水で水が屋根までくると屋根が浮き上がり舟の代わりになるようにできています。このように、吉野川の洪水の恐ろしさを知っていた先人たちは、緊急事態に備え家づくりを行っていたのです。

写真４　田中家

写真５　田中家の石垣

４．危険箇所を知らせる「高地蔵」たちは、命を守るための心の知恵

お地蔵さまは、庶民の信仰の対象として親しまれ全国至るところで見られますが、吉野川流域に残されているお地蔵さんは、水難に関わるものが多く、洪水に流されないようにとの願いから、台座が高いのが特徴で「高地蔵」と呼ばれています。

吉野川下流域には、高地蔵が点在しており、その数は、約 250 体で台座の高さが 1m を越えるお地蔵さまは 190 体ありました。また、「高地蔵」がある場所を地図上に記入してみると、吉野川の下流域、しかも南岸に多いことがわかります。これは下流域ほど洪水時の水位が高く、南岸の方が北岸よりも地形が低かったため洪水常襲地帯になっていたためだと思われます。

なお、国土交通省徳島河川国道事務所では平成 28 年５月に従来の浸水想定区域を改良し公表しましたが、高地蔵の位置と浸水想定区域を重ねると、その範囲は概ね一致していることがわかります。このように、高地蔵の台座は地域を守るために生まれた住民たちの「心の知恵」であり、水害の危険性を子々孫々（ししそんそん）に伝えていたのだと思います。まさに、藩政期におけるハザードマップと言えるのではないでしょうか。

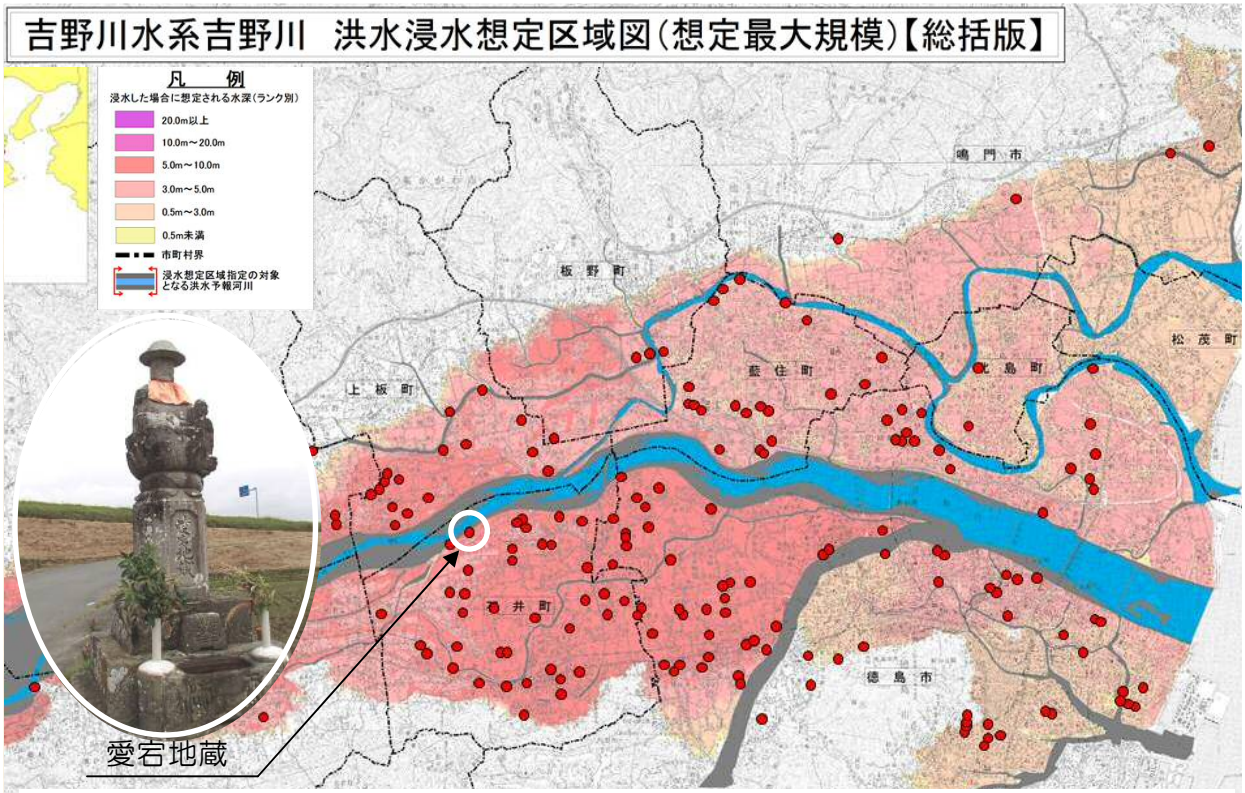

図２　浸水想定区域図（想定最大規模降雨）と高地蔵位置図

石井町西覚円（にしかくえん）にも「愛宕地蔵」という高地蔵があります。ここは明治 21 年７月に発生した洪水によって工事中の堤防が決壊した場所です。この頃の家には洪水に流されまいと「もちの木」が植えられていました。

この時も人々は「もちの木」によじ登り助けを求めましたが、水の勢いがますます激しくなり、さらに上流から流れてきた民家が引っ掛かってしまったため、一瞬にして「もちの木」も人も流され、尊（とうと）い命が失われました。現在、そのような惨状を思わせる痕跡（こんせき）はありませんが、水害にあわないようにとの思いから建てられた**「愛宕地蔵」が、当時より大きく丈夫になった堤防を背にして、静かに「もちの木」のあったあたりを見守っています。**

写真６　堤防を背に静かに見守る愛宕地蔵

写真７　もちの木

5．洪水遺跡を巡ろう！　参加者募集！

今月の歴史探訪は、石井町周辺の洪水遺跡を探訪しましたが、より理解を深めるために、土地の微妙な高低差を感じながら、洪水遺跡を自転車で探訪してみませんか？国土交通省徳島河川国道事務所では、次の通り「吉野川歴史探訪～自転車～」を行います。参加希望の方は是非、お申し込みください。

1．日時　平成 28 年 11 月 26 日（土）13 時～16 時

2．行程

12 時 30 分～13 時 00 分　　石井河川防災ステーション　集合受付

13 時 00 分～13 時 30 分　　概要説明

13 時 30 分～16 時 00 分　　自転車による洪水遺跡探訪

愛宕地蔵～印石～田中家～龍蔵堤～第十堰～石井河川防災ステーション

＊第十堰から石井河川防災ステーションはバスで移動します。

3．参加人数　募集人員は 15 名程度とし定員を超えた場合は、抽選とさせていただきますのでご了承願います。

4．参加条件　石井河川防災ステーションへ集合できる方で、自転車に乗れる方なら OK です。

5．応募方法　必要事項（郵便番号、住所、氏名、年齢、電話番号）を記入の上、メール、FAX、郵送等で平成 28 年 11 月 16 日（水）17:00 までにご応募ください。応募先は以下にお願いします。

〒770－8554　徳島市上吉野町 3 丁目 35
国土交通省　徳島河川国道事務所　地域連携課
フィールド講座　「吉野川歴史探訪～自転車～」係
T　E　L：088-654-9175（直通）
F　A　X：088-654-9177
E メール：skr-tokusa63@mlit.go.jp

※メールで応募される方は左記の QR コードをご利用出来ます。

※抽選結果は後日、電話もしくはメールにてお知らせ致します。

6．その他

(1)自転車は、ご自身の自転車、若しくは、国土交通省徳島河川国道事務所でも貸しだし可能です。

(2)飲料水などは各自で用意してください。

(3)悪天候の場合は中止することがあります。（この場合、事前に連絡致します）。

写真８　過去の吉野川歴史探訪の様子

講演　「吉野川の歴史探訪」～川の流れのあゆみ～を行いました。

あらためまして、別宮川三郎です。10 月８日（土）に四国大学で講演を行ってきましたので、その様子をご報告します。

当日は３連休の初日にもかかわらず、多くの方が会場に足を運んでくれました。講演は、これまでの「Our よしのがわ」でご紹介した吉野川の概要や吉野川歴史探訪、河川改修などについてお話しました。

普段、我々が何気なく目にする吉野川が、実は昔から人々の暮らしに密接に関わり、吉野川流域の住民にとってまさに「恵みのかわ　されど暴れ川」であることを、全国からお集まりの皆さんに知っていただくことができました。

講演を通じて、参加された皆さんが少しでも吉野川について興味を持っていただければうれしく思います。また、これからも多くの方に吉野川のファンになっていただけるよう、取り組んでまいります。

講演の様子

徳島河川国道事務所では、「吉野川流域講座」として吉野川流域の各地へ職員がお伺いし、ご要望の情報を説明します。徳島河川国道事務所ホームページの「吉野川流域講座のご案内」をご確認下さい。

◇徳島河川国道事務所ホームページ「吉野川流域講座のご案内」
http://www.skr.mlit.go.jp/tokushima/river/event/yoriyoikawa/ryuuiki/ryuuiki15.html